

東日本大震災に対する九州地方整備局の取り組み（第16報）

平成23年4月11日 17:00現在

1. 概要

九州地方整備局では、東日本大震災における災害対応のため、
 ・緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)、災害対策現地情報連絡員(リエゾン)等の職員
 ・災害対策用機械(排水ポンプ車、衛星通信車、待機支援車)
 などを、発災直後の3月12日から数多く派遣し復旧作業及び災害支援を継続的に行っています。

○TEC-FORCE、リエゾン等職員の派遣 延べ718人日

○災害対策用機械(排水ポンプ車、衛星通信車等)の派遣 ... 延べ322台日

- ・排水ポンプ車は、津波により浸水した石巻市真野(まの)地区など2地区で排水作業を完了し、現在石巻市釜谷(かまや)地区で排水作業を実施中です。
現在までに約400万トン、25mプール約1万1千杯分の排水を行っています。
- ・通信手段の全てを失った大船渡市内において、衛星通信車を設置し、発災後9日目の3月19日から、岩手県庁～大船渡振興局間の電話・FAX合わせて4回線を確保しました。通信回線は災害復旧現場との連絡や県庁、近隣自治体の住民安否等の確認に現在も利用されています。
- ・九州地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「海翔丸」は、発災翌日の3月12日に北九州港を出港し、3月17日から3月24日にかけて、仙台塩釜港・小名浜港・相馬港への緊急輸送物資の搬送、油・飲料水の供出を行いました。(※仙台塩釜港、相馬港には緊急物資船として初入港)
- ・整備局職員で構成されるTEC-FORCEは、発災翌日の3月12日に九州を出発し、名取川、国道45号及び宮古港・仙台塩釜港・相馬港の被災状況調査をいち早く実施し、その後の緊急復旧に貢献しました。

2. [緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)]

被災した宮城県東松島市、岩沼市、及び岩手県大船渡市等に のべ577人日を派遣。

派遣班	のべ人数(人日)	主な派遣先
現地支援班	143	東北地方整備局
河川班	56	一級河川名取川
道路班	48	国道45号 南三陸地区
港湾班	148	宮古港・仙台塩釜港・相馬港
情報通信班	80	岩手県大船渡振興局
建設機械班	102	宮城県岩沼市、宮城県石巻市
合計	577	

3. [災害対策現地情報連絡員(リエゾン)]

被災した岩手県釜石市、大船渡市に のべ141人日を派遣。

派遣先	のべ人数(人日)
岩手県釜石市	89
岩手県大船渡市	52
合計	141

4. [災害対策用機械・船舶等]

九州地方整備局が保有する災害対策用機械（排水ポンプ車、衛星通信車、待機支援車）

現在計10台を派遣中。

- ・排水ポンプ車は、石巻市真野地区、岩沼市仙台空港周辺の2箇所での排水作業を完了し、現在、石巻市釜谷区に6台を配置し排水作業を実施中です。
- ・衛星通信車は、通信が全く途絶した大船渡市内の大船渡振興局に設置し通信回線の確保を行っています。通信回線は災害復旧現場との連絡や県庁、近隣自治体の住民安否等の確認に利用されています。

はるかぜ・海翔丸を派遣。

- ・九州地方整備局保有のヘリ、「はるかぜ号」は発災翌日の3月12日から3月22日にかけて、被害状況調査を行いました。
- ・九州地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「海翔丸」は、3月12日に北九州港を出港し、3月17日から3月25日にかけて、仙台塩釜港・小名浜港・相馬港へ緊急輸送物資の搬送、油・飲料水の供出を行い、3月28日に北九州港帰港しました。
（仙台塩釜港、相馬港には緊急物資船として初入港）

災害対策用機械の現在の配置先・台数

配 置 先	配置機械(台数)	備考
宮城県岩沼市 釜谷地区	排水ポンプ車(6台)	
宮城県仙台市 東北地方整備局	待機支援車(1台)	
岩手県大船渡市 大船渡振興局	衛星通信車(1台) 待機支援車(1台)	
岩手県釜石市	待機支援車(1台)	

災害対策用機械・船舶等の支援活動概要

災害対策用機械	支 援 活 動
排 水 ポ ン プ 車	浸水地域の排水作業
衛 星 通 信 車	被災地域の通信機能確保
待 機 支 援 車	上記作業の支援(情報収集や打合せ、休憩施設)
海 翔 丸	緊急輸送物資の搬送、油・飲料水の供出
は る か ぜ 号 (ヘリ)	津波による湛水地域の状況調査

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 災害対策本部

企画部 建設専門官 久留（ひさどめ）

電 話：092-414-7301（本部直通）

FAX：092-481-9210（本部直通）

【参考】

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の活動状況

■目的

TEC-FORCEとは、大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う、被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたものです。

■各班の主な活動

【現地支援班】

国土交通本省、東北地方整備局、TEC-FORCE各班、自治体派遣のリエゾンとの連絡調整を行っています。

【河川班】

3月12日に九州を出発し、3月14日～3月16日にかけて、一級河川名取川の現地調査を行い、3月17日現地調査結果を取りまとめ、東北地方整備局へ結果報告を行いました。

【道路班】

3月12日に九州を出発し、3月14日～3月15日にかけて、国道45号南三陸地区の現地調査を行い、3月16日現地調査結果を取りまとめ、東北地方整備局へ結果報告を行いました。

【港湾空港班】

3月12日に九州を出発し、3月14日～3月16日仙台塩釜港・宮古港・相馬港の現地調査を行い、3月17日現地調査結果を取りまとめ、東北地方整備局へ結果報告を行いました。



堤防被災調査【名取川】



道路被災調査【国道45号】



宮古港の被災状況



現地調査結果取りまとめ状況

【情報通信班】

通信施設が被災し通信手段を失った地域に対して、九州地整より衛星通信車及び職員を派遣し、自治体庁舎及び災害復旧現場において通信回線(電話及びFAX)4回線の確保を行いました。設営した通信回線は、災害復旧現場との連絡や県庁、近隣自治体との住民安否等の確認に利用されています。

大船渡地域振興局における通信回線の確保



衛星通信車の設置状況



自治体職員の
通信回線の使用状況

一級河川北上川復旧工事における通信回線の確保



衛星通信車の設置状況



通信回線の設営作業



【建設機械班】

東北地方整備局からの要請により軽油10,000Lをタンクローリーで、九州より大崎市の大江川排水機場地下タンクに運搬しました。

また、浸水被害が著しい箇所の内水排除を目的に、3月13日から排水ポンプ車を宮城県の大崎市（仙台空港周辺）へ4台、大崎市へ2台派遣し、毎日24時間体制（1台で1日最大約4万トン）で排水作業を行いました。現在は、大崎市釜谷へ6台を派遣し排水作業を行っています。

現在までに上記3地区合わせて約400万トン（25mプール約1万1千杯分）の排水を行っています。



災対車派遣状況



石巻市真野川支川への排水状況



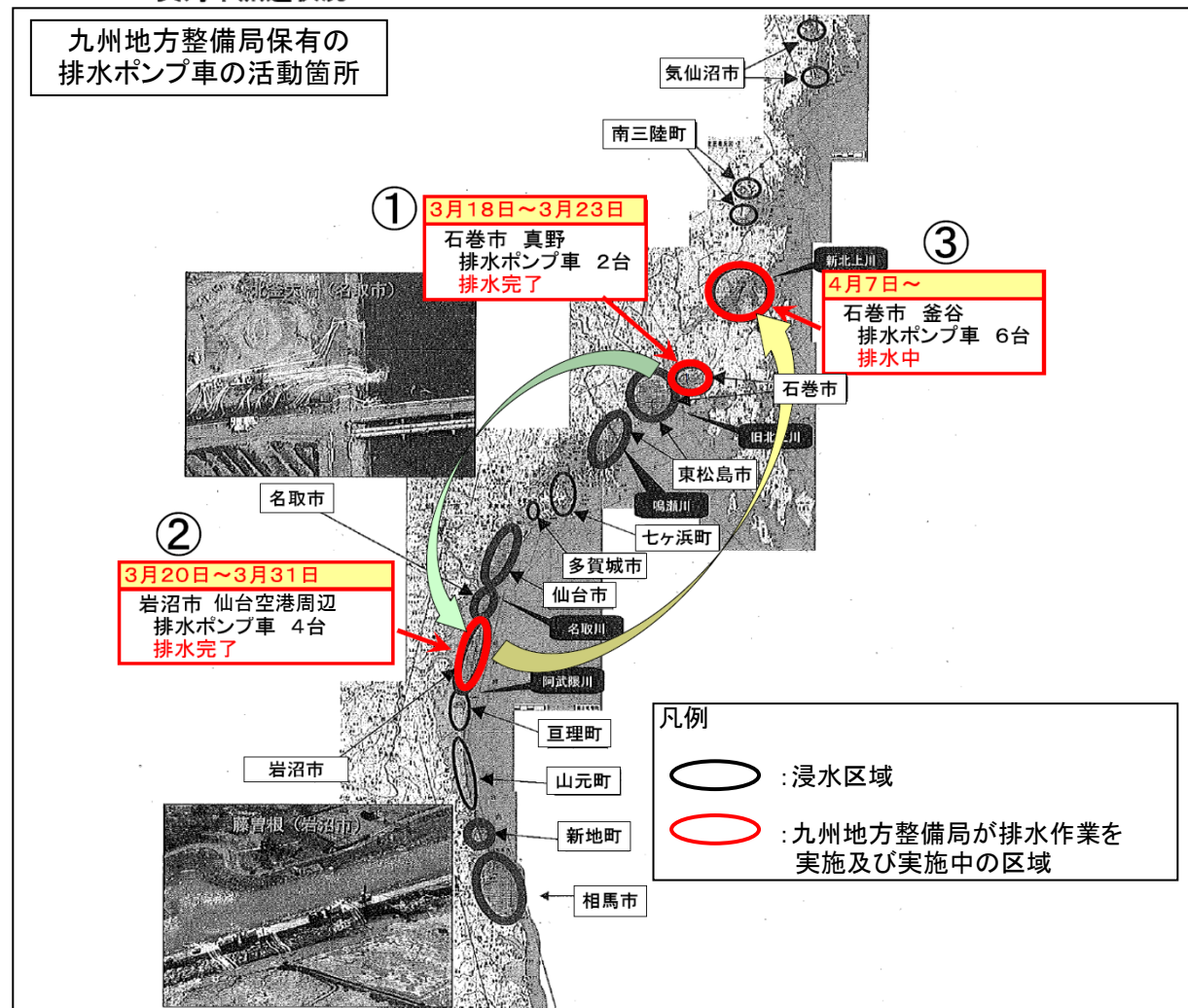
排水状況図



内水側：ポンプ車設置状況



排水ポンプ車イメージ図



海翔丸・はるかぜ号の活動状況

■海翔丸の主な活動

九州地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「海翔丸」、3月12日に北九州港を出港し、3月17日から3月25日にかけて、仙台港・小名浜港・相馬港への緊急輸送物資の搬送、油・飲料水の供出を行いました。

- 3月12日 北九州港出港
- 3月17日 仙台塩釜港啓開後第1船として入港、物資陸揚げ
～21日 ・発動機付き投光器21セット(15t)
・非常食、日用品等(7t)
・A重油(約30KL)、飲料水(約40m3)
- 3月21日 仙台塩釜港出港
- 3月23日 横須賀港入港、支援物資積み込み出港
- 3月24日 小名浜港で物資陸揚げ
- 3月25日 相馬港で陸揚げ
- 3月28日 北九州港帰港

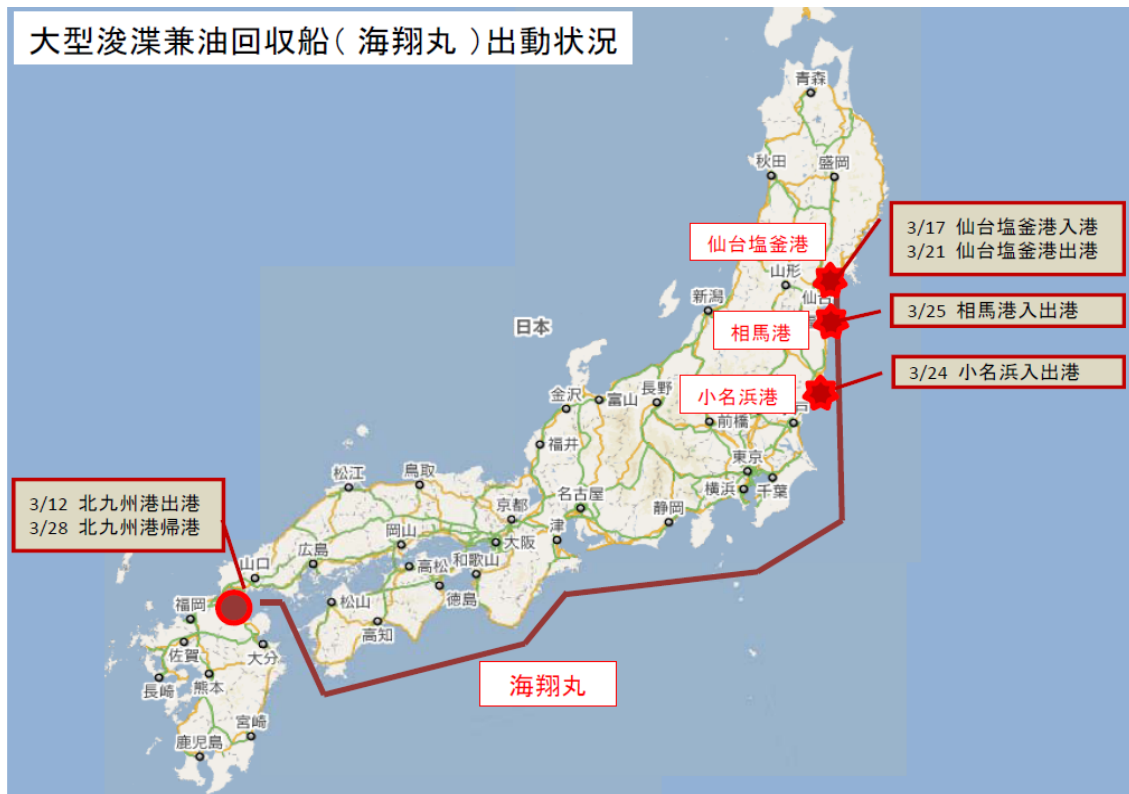


支援物資荷下し状況



飲料水の提供状況

大型浚渫兼油回収船（海翔丸）出動状況



■はるかぜ号の主な活動

九州地方整備局保有のヘリ、はるかぜ号は3月12日から3月22日にかけて、被害状況の調査を行いました。

災害対策現地情報連絡員(リエゾン)の活動状況

■目的

リエゾン派遣は、自治体が災害対応に追われ、整備局との間で十分な連絡・連携が出来ない場合、連絡窓口として整備局職員を直接自治体へ派遣し、整備局・自治体相互の情報共有や、TEC-FORCEやヘリコプター・照明車等の災害対策用機械等の自治体への応援派遣に係る調整、災害復旧等の支援に関する自治体からの相談受付・整備局への伝達等を行い、迅速かつ的確な災害対策及び災害支援に資することを目的としています。

※リエゾンとはフランス語で連絡・連携や橋渡し、繋ぐといった意味。

■リエゾンの主な活動

3月21日より被災地の岩手県釜石市に4名、岩手県大船渡市に2名、延べ141人日を派遣しています。被災自治体と国土交通本省、東北地方整備局、岩手県庁の連絡窓口として災害対策及び災害支援等に関する情報共有のための業務を行うとともに、また、被災者からの要望窓口の役割を担っており、寄せられた要望についてはリエゾンが駐在している自治体などに情報提供を行っています。